

# 八幡西遺跡発掘調査説明資料

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター 平成 28 年 8 月 20 日 (土) 14 時

## 調査要項

遺跡名(番号)	八幡西遺跡(遺跡番号 382-172)
所在地	山形県東置賜郡川西町大字西大塚字八幡西(因幡一)
時代・種別	古代～近世の集落跡
起因事業	一般国道 113 号梨郷道路事業
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査機関	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
現地調査	平成 28 年 5 月 16 日から 11 月 10 日まで
調査面積	約 7,000㎡
調査担当者	主任調査研究員 菊池玄輝(現場責任者) 調査員 板橋龍 長谷川大旗
検出遺構	掘立柱建物、溝、井戸、土坑、柱穴
出土遺物	土師器、須恵器、中世陶器など

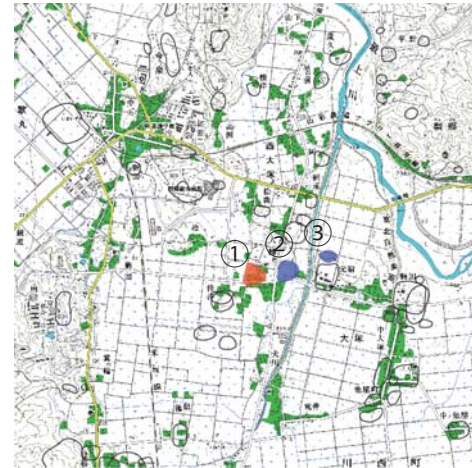


図1 遺跡位置図(1/50,000)  
①八幡西遺跡 ②八幡一遺跡 ③元宿北遺跡

## 1 調査の概要

八幡西遺跡は川西町の北端(西大塚)に位置しています。整備が進む国道 113 号「梨郷道路」(新潟山形南部連絡道路の一部)事業区間に当たり、平成 25 年度の元宿北遺跡、同 26 年度の八幡一遺跡に続き、計画路線部分の発掘調査となりました。対象地は排土置き場の制約から 2 分割し、前半を B 区、後半を A 区として 2 回に分けて調査を折り返します。今回の現地説明会は前半調査の成果報告で、後半の説明会は 11 月に予定しています。

## 2 見つかった遺構と遺物

地表から古代中世の遺構面までの深さは、発掘区の北側で -50cm、南側では -100cm です。これは微地形に基づく差で、北側は微高地、南側には緩傾斜の低地が広がります。遺構は微高地上に密集し、低地に下降するほど分布は稀薄になります。

**低地** 低地は一面が古代の遺物包含層(

黒色粘土層)に覆われ、往時には地帯が離水し湿地化していたことが分かります。その中で、水際の一角から完形の竈形土製品が出土しました(図 10)。竈形土製品とは、竈の形をした酸化炎焼成の土製品です。出土事例は東北地方では僅か 10 遺跡・43 点に限られ、県内では中山町の三軒屋物見台遺跡(古墳時代後期)に次いで 2 例目となります。これらを概観すると、年代的には 8 世紀から 10 世紀の幅に収まるとみられ(物見台例を除く)、仏教関連遺物が複数遺跡で出土していることが注目されます。

この低地は、近世になると低湿をかまわず(後述の)屋敷地に取り込まれますが、区画の外では理にかなった水田も見つかりました。

**微高地** 微高地では、掘立柱建物跡、溝跡、井戸跡、土坑などが見つかりました。

掘立柱建物跡は、主軸が南北方向の建物が 3 棟(SB174・195・208)、東西方向の建物が 3 棟(SB234・243・308)、主軸の方向がほ

かと異なる建物が 1 棟(SB216)見つっています。

主軸が南北方向の建物は柱間寸法が 5～6 尺で間仕切は検出されなかったため、建物の時期は中世前半であると推測されます。

建物の大きさは、SB174 が 3 間×3 間で南北に廂を持ちます。SB195 は 4 間×3 間、SB208 は 2 間×2 間です。

主軸が東西方向の SB243 は、柱掘方は大きいものの、柱間寸法は 6.5 尺で間仕切柱が検出されたため、建物の時期は古代ではなく近世中期以降と推測されます。SB243 は西面ははっきりしませんが、以外の 3 面には廂を持ちます。また、SB234 も同じ東西方向であるため、時期は SB243 と同じである可能性があります。建物の大きさは、大型の SB243 が 8 間×4 間、SB234 は 2 間×2 間、SB308 は 1 間×1 間です。

溝跡は、東西南北に多数検出されました。調査区を東西方向に横断する 2 条の溝(SD106・123)は並行しており、溝からは古代の土器が出土しています。また、SB243

と方向が一致する溝(SD105・126)も見つかり、屋敷の区画溝である可能性もあります。

井戸跡は 2 基(SK104・165)確認されています。SK104 は板組の井戸枠を持ち、内部からは土師器、須恵器などが出土しています。SK165 は曲物が設置してありました。

土坑や柱穴は調査区に広く分布しており、SK116 では有段丸底の土師器が出土しています。また、SK158 からは骨片が検出されました。SK147 には桶が設置してあり、内部からは貝製のボタンや動物骨などが出土しました。柱穴は直線的に並ぶものが複数検出されており、更に数棟の建物跡の存在が考えられます。

## 3 まとめ

9 月から西隣の後半調査が始まりますが、中世の掘立柱建物跡や近世以降の耕地(水田域)などは展開してくるでしょう。これらは、現在の集落や耕地に継承され、地域社会の基盤を成すものも少なくないと予想します。



図2 SB243 大型掘立柱建物跡(北西から)





図3 B区遺構検出状況(垂直)



図4 SB208 掘立柱建物跡(北から)



図5 SB195 掘立柱建物跡(北から)



図6 SB174 掘立柱建物跡(西から)



図7 SB216 掘立柱建物跡(北から)



図8 SK104 井戸跡(南東から)



図9 SD106 溝跡(西から)



図10 竈形土製品出土状況(南から)



図11 SK158 骨出土状況(南から)



図12 SD123 須恵器出土状況(南から)



図13 SK147 桶内出土状況(南から)